

図 3-85 は日本の南西部付近のクロロフィル濃度について GOCI-2 と GCOM-C を比較したものである。GCOM-C と比べ、沿岸域の欠損が多い。またいずれの衛星も分解能は 250m となっているが、図 3-85 を細かく見ると GCOM-C の方が精細なものとなっている。

地球周回衛星で軌道高度が 798 km の GCOM-C に対し、静止衛星で軌道高度が 35,786 km の GOCI-2 は観測画像の質では不利な条件にある。

我が国周辺は GCOM-C、GOCI-2 のいずれも観測、処理（配信）されて利用できるため、信頼性の高い情報は GCOM-C をベースとしながらも、時間経過に伴う変化は GOCI-2 で捉えるといった複合的な利用方法が可能である。両衛星の運用期間（可能であればそれぞれ後継機による継続が望ましい）は、日本周辺の海洋情報の発展において、衛星観測の点で恵まれた期間となる。

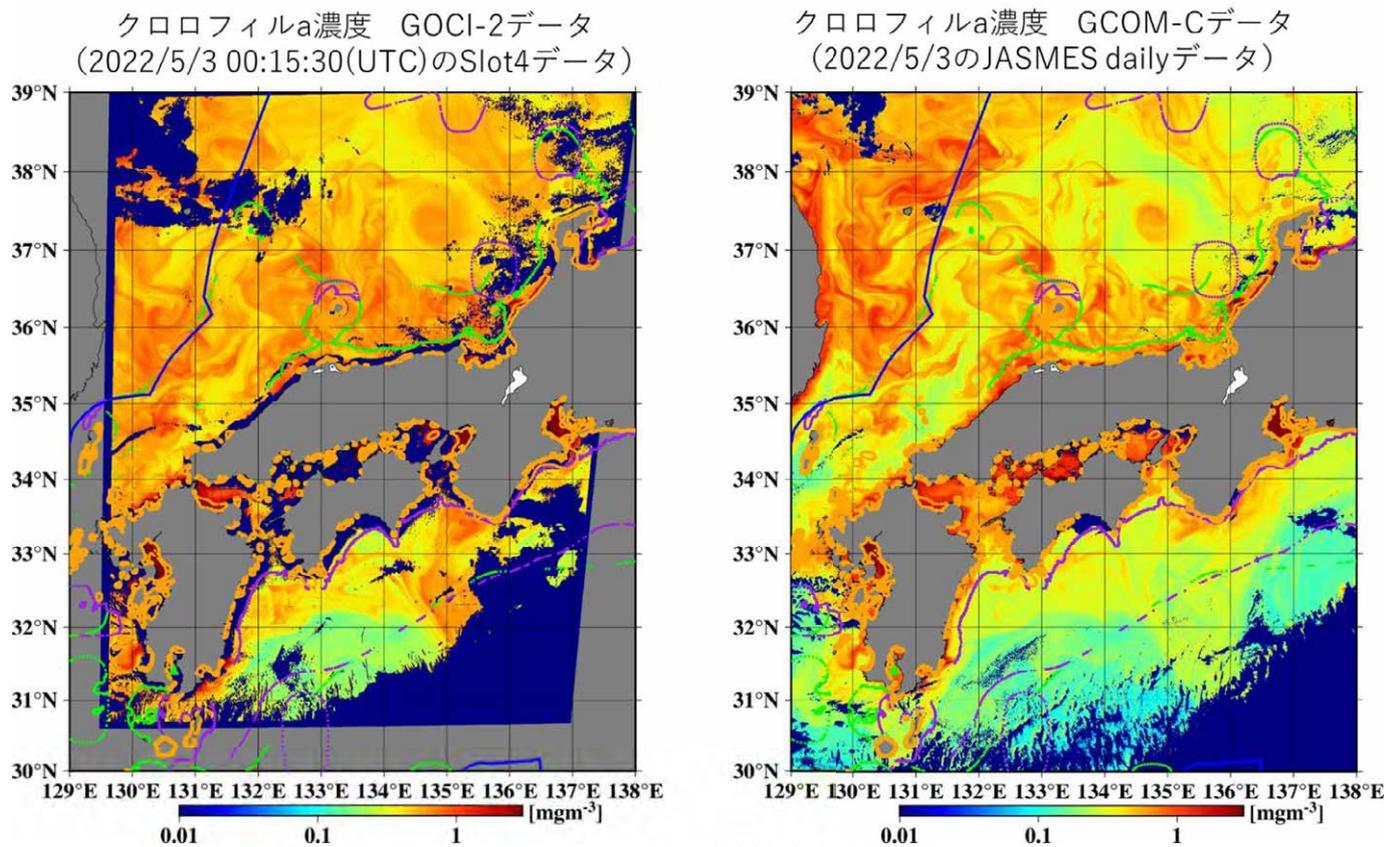


図 3-85 クロロフィル濃度の比較 (GOCI-2 と GCOM-C)

また、図 3-86 は塩分濃度に関する GOCI-2 と Copernicus 海洋 (CMEMS) から提供されている Global Ocean 1/12° Physics Analysis and Forecast updated Daily (モデルによる計算値、空間解像度: 0.083°) を比較したものである。モデルは雲等による観測欠損が生じないが、GOCI-2 は細かい塩分濃度変化が観測されている。

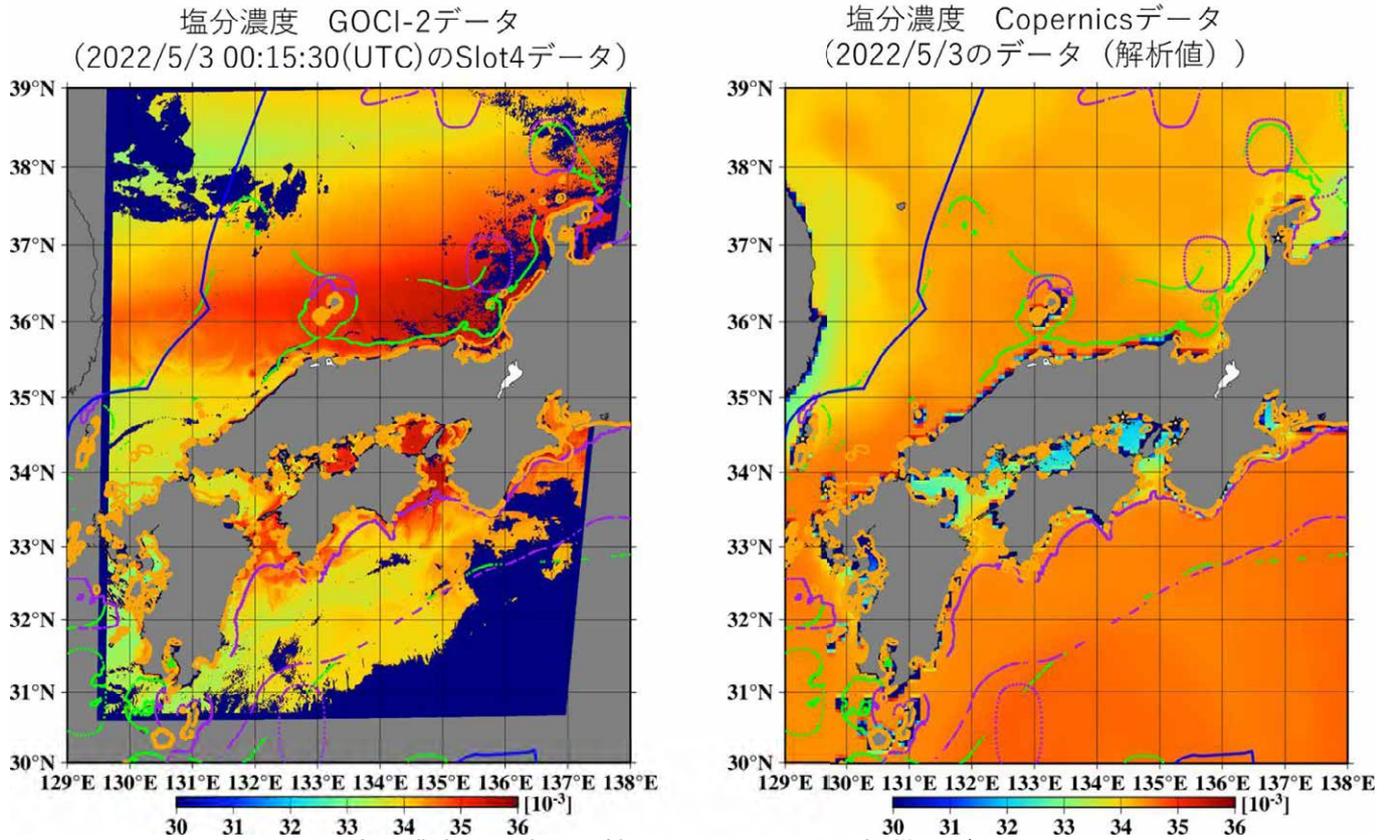


図 3-86 塩分濃度に関する比較 GOCI-2 と CMEMS 提供モデル